第１９回　園芸福祉シンポジウム in くれ　　開催報告

2023 年 5 月 19 日(金)、20 日(土)、21 日(日)の 3 日、G7 広島サミットが開催されました。今回は 7 か国の首脳に加えてウクライナのゼレンスキー大統領も急遽最終日に広島に来られました。園芸福祉シンポジウムはその 1 週間後の２７日に広島から３０Km ほど南東にある瀬戸内海に面した港湾都市呉市で開催されました。

これまでオンラインで顔を合わせてはいましたがリアルで会うことの大切さを痛感したこれまでの 3 年間でした。“仲間と集い・語らい・楽しむことができる喜びを感じる”会とすることが大きな目的となりました。

今回は日本園芸福祉普及協会主催で広島の４つの団体が共催者とさせていただいてプログラム立案から始まり、広島県内のみならず全国各地から約７０名の園芸福祉士らが参加してくださいました。

１３時３０分からひろしまね園芸福祉協会（以降 HEFK と略す）の高橋三保子さんの司会で始まり、小田原 HEFK 代表の挨拶、続いて基調報告は竹原市で２０１８年から続いているデイサービスでの認知機能維持を目的としたフラワーアレンジメント活動の成果が社会福祉法人的場会の中川常務理事と HEFK の進藤事務局長から発表しました。

休憩の合間に種交換会も開催され 20～30 種類の種が総数約 150 袋集まり、多くの参加者が喜んで持ち帰っていただきました。

第二部のグループディスカッション Well-being 咲かさサミットは「トップの集まりでなく活動現場からの情報交換会」とし、５つのグループにはそれぞれ１４～１５名の参加者が事前に日本園芸福祉普及協会で各組のメンバーを選んでいて各自が指名された組に自分で車座になるよう椅子を移動して始まりました。自己紹介の後、広島のグループを 3 分間で紹介し、その後各組の取りまとめ役の方が進行を行ってくださり、楽しい対面での話し合いができました。

最後に吉長理事長が来年 6 月に開催される浜松花博の紹介をされて無事楽しいシンポジウムを終了することができました。皆さん久ぶりの対面で会話ができることを本当に楽しんでおられ、やはり、対面で話すことの大切さと楽しさを再認識しました。

ささやかですが、大きな会場を少しでも和やかに、心休まるように HEFK の活動の中から生まれた「椿の栞」や地酒「椿露」、そして蜜蝋ラップで包んだ「ハーブの一輪挿し」の 3 つのお土産を用意しました。

挨拶

基調報告

交換会に集まった種

グループディスカッション

集合写真

（報告者 HEFK：小田原　裕紀、高橋三保子、進藤丈典）